

授業科目	看護技術総合演習	4 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	浅利剛史 (保健医療学研究棟 E109 号) e-mail : asari.tsuyoshi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	鳥谷めぐみ、田口裕紀子、飯澤良祐、他		
概要	本科目では、既習の知識・技術・態度を統合し、臨床に適用できる実践能力を養うことをねらいとする。具体的には、複合的な健康障害を抱える模擬事例の健康状態や治療過程に即した臨床判断の基本を学び、看護援助を実践する。この学習プロセスを通して、自己の看護実践能力を認識し、今後の課題を明確にする。		
到達目標	<p>I. 模擬事例に対する看護援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報の優先性を考慮し、既習の知識を活用して模擬事例に対する看護を根拠に基づいて適切に判断できる。 2. 模擬事例の健康状態や治療過程に即した看護援助を選択し、実施によるリスクを予測しながら看護援助を実施できる。 3. 科学的根拠と観察に基づいて、安全・安楽に留意しながら的確に看護援助を実施できる。 4. 模擬患者の状態や場の状況に応じて、信頼関係の形成に必要なコミュニケーションを図ることができる。 <p>II. ケア環境とチーム体制を理解した実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施した看護援助を評価し、必要な報告と記録ができる。 2. リスク・マネジメントを含む医療安全の基本的な考え方と看護師の役割を説明できる。 3. チームメンバーと情報を共有することの意義とその実際を説明できる。 		
関連科目	基礎看護方法1～4、看護安全管理論、看護統合実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は提出状況、および内容の目標到達状況により、60 点以上を合格とする。 ・技術試験は採点表に基づき、60 点以上を合格とする。 ・学習状況はグループ学習への参加状況や演習への取り組みなどから判断し、60 点以上を合格とする。 上記3項目より評価し、すべての合格により単位を認定する。
	技術試験	40%	
	学習状況	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習要項と資料を熟読する。 2. 事前・事後課題(ナースング・スキル含む)に計画的に取り組む。 3. 掲示は直接自分の目で確認し、必要な行動を速やかにとる。 4. 学生サポートシステムからの連絡を確実に受信できるようにしておく。 		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 模擬事例の提示	事前：事前配付資料を読む 事後：模擬事例に対する課題	演習	浅利・鳥谷・田口・飯澤
2	模擬事例に関連したグループ演習 A	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
3	模擬事例に関連したグループ演習 A	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
4	模擬事例に関連したグループ演習 B	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
5	模擬事例に関連したグループ演習 B	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃

6	模擬事例に関連したグループ演習 C	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
7	模擬事例に関連したグループ演習 C	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
8	模擬事例に関連したグループ演習 D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
9	模擬事例に関連したグループ演習 D	事前・事後：模擬事例に対する課題	〃	〃
10	看護技術演習のまとめ：看護記録と報告に関する学習	事前：看護技術演習 A-D の復習 配付資料を読む 事後：まとめに関する課題	〃	〃
11	リスクセクストレーニング	事前：看護技術演習 A-D の復習 配付資料を読む 事後：リスクセクストレーニングに 関する課題	〃	〃
12	模擬患者への看護実践(OSCE)に関するオリエンテーション	事前：演習要項の OSCE に関する記載 を読む	〃	〃
13	模擬患者への看護実践(OSCE)に向けた演習	事前：看護技術演習 A-D の復習	〃	〃
14	模擬患者への看護実践(OSCE)	事前：看護技術演習 A-D の復習 事後：OSCE 自己評価	〃	浅利・鳥 谷・田口・ 飯澤・他
15	模擬患者への看護実践に関する振り返り	事前・事後：模擬患者への看護実践に 関する課題	〃	浅利・鳥 谷・田口・ 飯澤